

令和2年度
修了生による教育評価報告書

令和3年10月

香川大学大学院地域マネジメント研究科

目次

総括	1
第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要	4
1. 調査の目的	4
2. 調査実施期間	4
3. 調査対象	4
4. 調査の内容	4
5. 集計方法	4
第2章 調査結果について	5
1. 回答者の属性	5
(1) 入学時の年齢(質問45)	5
(2) 入学時の自宅所在地及び勤務地(質問46)	5
(3) 入学時の就業状況、職種、役職について(質問47、48、49)	5
(4) 現在の就業状況、職種、役職について(質問50、51、52)	6
2. 在学当時の状況について	7
(1) 在学中の出席状況について(質問12)	7
(2) 在学中の勉強時間(質問13)	7
(3) 仕事で役立ったと思う科目(質問14)	8
(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目(質問15)	8
(5) 土曜日の開講について(質問16)	9
(6) 授業の聴講について(質問17)	9
(7) プロジェクト研究について(質問18、19)	10
(8) 自習室、教室の環境について(質問20、21)	11
(9) 本研究科PCルームの利用状況について(質問22、23、24、25)	12
(10) オンラインでの授業科目や受講について(質問26、27、28)	13
3. 在学当時の支援関係について	16
(1) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について(質問29、30)	16
(2) 学部学生の就職について(質問31)	16
4. 修了後の効果について	18
(1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力(質問32)	18
(2) 地域や社会への関心について(質問33、34)	24
(3) 人的ネットワークの構築について(質問35)	24
(4) 学んだことに満足しているかについて(質問36)	24
(5) 愛着について(質問37)	25
5. 現在の状況について	26
(1) 自己研修について(質問39)	26
(2) 地域活動について(質問40)	27
(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて(質問41、42)	28
(4) 後期(10月)入学の必要性について(質問43)	29
第3章 自由記述のデータ	30

総 括

- 令和2年度修了生26人中25人(96.2%)からアンケートへの回答があった。
- 令和2年度修了の16期生の属性の特徴は以下の通りである。
 - ・30代が3割弱と一番多いが、20代、40代、50代も各2割程度と分散している。
 - ・自宅は5割強が高松市、勤務地も6割弱が高松市内である。
 - ・入学時、修了時共に9割弱が就業している。(「正規雇用」「非正規雇用」の合計)
 - ・入学時の職種は、「サービス関係」「保健・衛生・医療関係」が多い。
 - ・入学当時の役職は「一般職・一般社員・一般職位」が多い。
- 在学中の出席状況は、すべての授業に出席した場合を100%として平均90.1%である。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では89.9%であった。
- 週当たりの勉強時間は、13.02時間である。前回アンケート調査では、14.68時間であり、約1.66時間減少した。
- 仕事で役立ったと思う科目は、「アカウンティング」と回答した人が最も多い。仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目は、「デザイン・マネジメント」と回答した人が多い。前回のアンケート調査(令和元年度修了生対象)では、仕事で役立ったが「人的資源管理論」で、仕事とは関係ないが役だったが「地域マネジメント論」、「デザイン・マネジメント」、「イノベーション・マネジメント」との回答数が多かった。
- 聴講した科目については、「聴講した科目はない」が72.0%、「聴講した科目がある」が20.0%(n=5)で、聴講した科目数1~2科目であった。
- 土曜の開講は、「必要(64.0%)」「ある程度必要(24.0%)」で合計88.0%となり、土曜日開講の必要性は高い傾向にある。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、「必要(66.7%)」「ある程度必要(25.0%)」で合計91.7%であった。
- プロジェクト研究については、「満足している(36.0%)」、「ある程度満足している(40.0%)」で合計が76.0%となっている。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、「満足している」(58.3%)、「ある程度満足している」(33.3%)で合計が91.6%となっており、前回より15.6%肯定的な回答が減少している。
- プロジェクト研究指導教員以外からの助言・指導については、「十分な助言・指導を受けた(52.0%)」「充分とはいえないが、助言・指導を受けた(32.0%)」で合計が84.0%となっている。

- 環境（自習室、教室）については、自習室に「満足している（52.0%）」「ある程度満足している（12.0%）」で合計が64.0%となっている。また、教室に「満足している（44.0%）」「ある程度満足している（40.0%）」で合計が84.0%となり、多くが満足と回答している。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、自習室に「満足している（50.0%）」「ある程度満足している（33.3%）」で合計83.3%、教室に「満足している（33.3%）」「ある程度満足している（58.3%）」で合計91.6%であった。
- 本研究科 PC ルームの利用状況については、「イベントやプロジェクト研究等のみ（16.0%）」「1週間に1回以上（12.0%）」「1ヶ月に2～3回程度（8.0%）」で、「ほとんど利用しなかった」が60.0%だった。
- 授業の受講方法については、「授業は主に対面で受講したが、事情に応じてオンラインで受講することもあった」が44.0%、「授業は主にオンラインで受講した」が32.0%、「授業は主に対面で受講した」が16.0%となっている。
- オンラインでの受講については、「問題なくオンラインで受講できた」が92%（「そう思う」「どちらかというと思う」の合計）、「オンラインの授業に大方満足」が84%（同上）となっている。
- 社会人組織（所属組織）からの支援を受けた人は24.0%、社会人組織以外（奨学金など）からの援助を受けた人は40.0%となっている。
- 学部からの進学生による就職についての対応についての満足度は、「満足している（n=2、8.0%）」「ある程度満足している（n=1、4.0%）」となっている。（「無回答（84.0%）」）
- 大学院教育で身についた能力は、「意見の違いや立場の違いを理解する力」「自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力」と回答した人が多かった。
- 地域や社会への関心については、入学前から「高い関心を持っていた（28.0%）」「関心を持っていた（56.0%）」で、入学後に「関心が高まった」は100%であった。
- 研究科での人的ネットワークの構築については、「非常にできた」が56.0%、「ある程度できた」が44.0%で合計100%であった。
- 研究科で学んだことについての満足度は、「満足している（84.0%）」「ある程度満足している（16.0%）」で合計100%であった。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、「満足している（91.7%）」「ある程度満足している（8.3%）」で合計100%が満足と回答していた。
- 研究科への愛着については、「非常にある（84.0%）」「ある程度ある（12.0%）」で合計96.0%であった。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、「非常にある（50.0%）」「ある程度ある

(50.0%)」で合計100%であった。

- 今後の講演会、シンポジウム等への参加意向については、「(参加しよう)と思う」が92.0%であった。
前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、「思う」が83.3%であった。
- 講演会、シンポジウムの形式については、「一般公開」がよいとする意見が88.0%、「在学生・修了生のみ対象」が12.0%となっている。
前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では「一般公開(58.3%)」「在学生・修了生のみ対象(33.3%)」であった。
- 後期入学の必要性については、「非常に必要(4.0%)」「ある程度必要(52.0%)」で合計56.0%であり、「どちらともいえない」が20.0%、「あまり必要でない」が20.0%、「全く必要でない」が4.0%となっている。
前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、「非常に必要(8.3%)」「ある程度必要(16.7%)」で合計25.0%、「どちらともいえない」が50.0%、「あまり必要でない」が25.0%、「全く必要ない」が0.0%であった。

第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要

1. 調査の目的

この度、本研究科の令和2年度修了生を対象に大学教育評価に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を「修了生による大学院教育評価報告書」に取りまとめた。

この調査の目的は、本研究科の提供する専門職大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本研究科に対する要望等を把握することを目的として実施することである。

2. 調査実施期間

令和3年3月24日（水）

3. 調査対象

（1）調査対象と調査方法

調査対象は、令和2年度地域マネジメント研究科の修了生全員である。修了式、学位授与式の終了後、修了生にアンケートに記入してもらい、その場で回収した。

（2）回収数及び回収率

アンケート調査の回収数は、令和2年度修了生26人中25人から回答があった

4. 調査の内容

アンケート調査の質問項目は、Ⅰ.在学当時の状況について、Ⅱ.在学当時の支援関係について、Ⅲ.修了時の効果について、Ⅳ.現在の状況について、Ⅴ.香川大学、本研究科へのご要望、Ⅵ.あなた自身について、の6項目についてである。

5. 集計方法

集計方法は、質問ごとに単純集計を行い、合計数とその割合（小数点第1位未満を四捨五入）を%で表示した。

第 2 章 調査結果について

1. 回答者の属性

質問 45～質問 52 は、回答者（修了生）の入学時の年齢、自宅所在地及び勤務地、就業状況、職種等を問うたものである。

（1） 入学時の年齢（質問 45）

入学時の年齢については、30 歳代（28.0%）が最も高く、以下、20 代（24.0%）、40 代（20.0%）、50 代（20.0%）と続いている（図 1 を参照）。

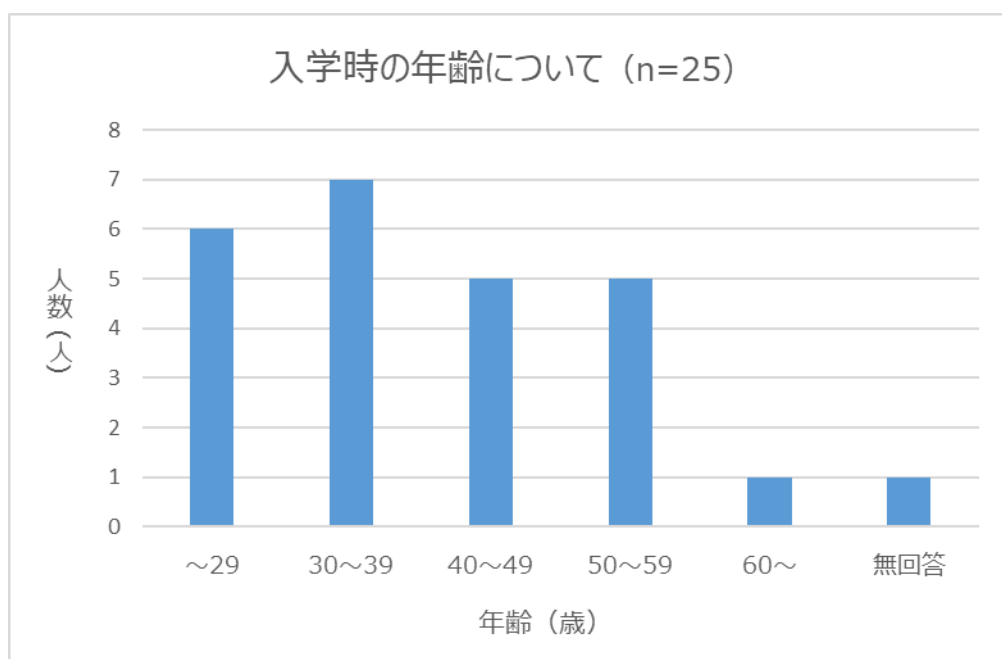


図 1 入学時の年齢

（2） 入学時の自宅所在地及び勤務地（質問 46）

研究科入学時における自宅所在地は、高松市 52.0%（13 人）で、高松市以外の香川県内 32.0%（8 人）、県外は 12.0%（愛媛県 1 人、岡山県 2 人）である。

勤務地は、高松市 56.0%（14 人）、高松市以外の香川県勤務地は 24.0%（6 人）となっている。

（3） 入学時の就業状況、職種、役職について（質問 47、48、49）

問 47 は本研究科の修了生が入学時に正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 76.0%（19 人）、非正規雇用 12.0%（3 人）、働いていない 8.0%（2 人）である。

職種は、サービス関係 16.0%（4 人）、保健・衛生・医療関係 12.0%（3 人）、機械関係、金融関係、公務員（地方自治体）、教育関係、その他が各 8.0%（2 人）となっている。（図 2 を参照）。

役職は、一般職（社員）が 16.0%（4 人）、主任 8.0%（2 人）、経営者、理事長、代表取締役、部次長、部長代理、課長代理、主事、マネージャー、専任教諭、介護職、学生が各 4.0%（1 人）、

無回答が 32.0%（8 人）となっている。

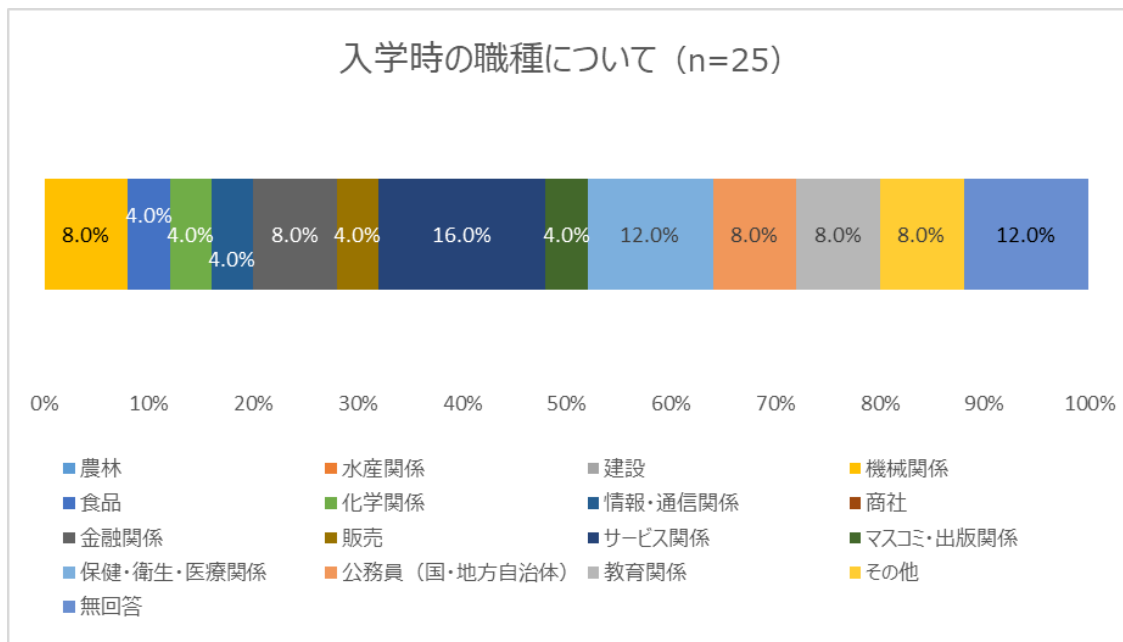


図 2. 入学時の職種について

(4) 現在の就業状況、職種、役職について (質問 50、51、52)

問 50 は本研究科の修了生が現在就業状況を問うたものである。正規雇用が 84.0%（21 人）、非正規雇用、働いていないは各 4.0%（1 人）である。

職種は、サービス関係 16.0%（4 人）、保健・衛生・医療関係 12.0%（3 人）、機械関係、金融関係、公務員（地方自治体）、教育関係、その他が各 8.0%（2 人）となっている。（図 3 を参照）

役職は、一般職（社員）が 16.0%（4 人）、主任 8.0%（2 人）、経営者、理事長、代表取締役、部長、部次長、部長代理、課長代理、主事、団長、看護・介護職員が各 4.0%（1 人）、無回答が 36.0%（9 人）となっている。

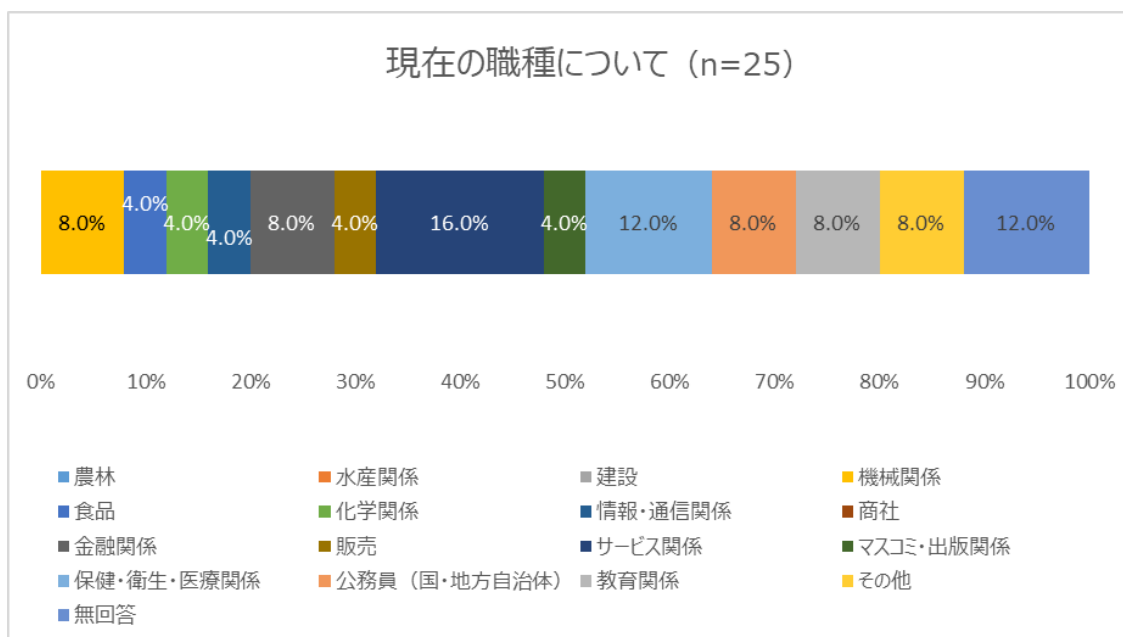


図 3. 現在の職種について

2. 在学当時の状況について

(1) 在学中の出席状況について（質問 12）

在学中にどれだけ出席できたかを見てみる。全ての授業に出席した場合を 100%とし回答してもらったところ、平均が 90.12%となった（図 4 を参照）。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、89.9%であった。

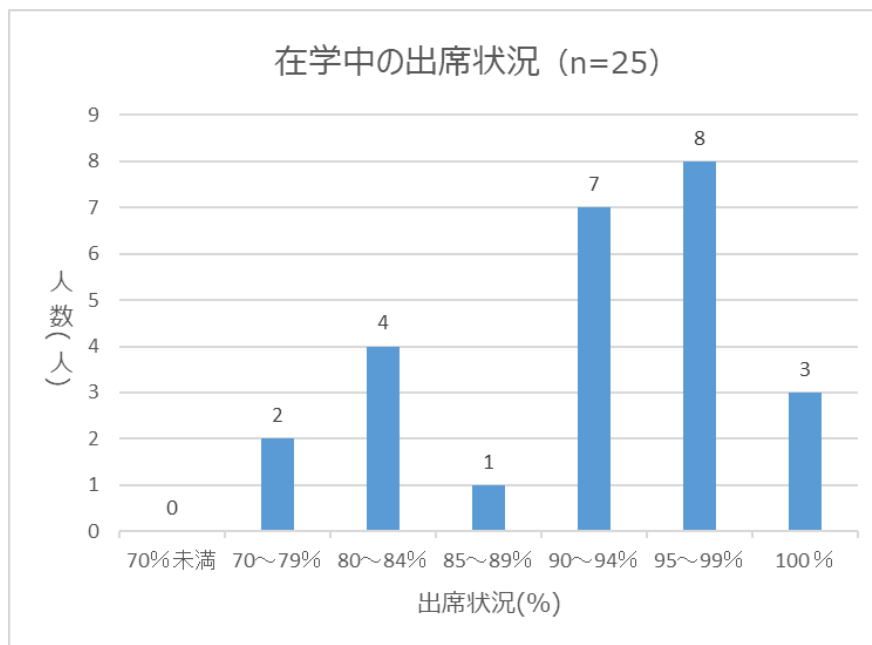


図 4. 在学中の出席状況

(2) 在学中の勉強時間（質問 13）

在学中に週に勉強時間をどの程度、またどのように確保したのかを見てみると、平均 13.02 時間となる（図 5 を参照）。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、14.68 時間であった。

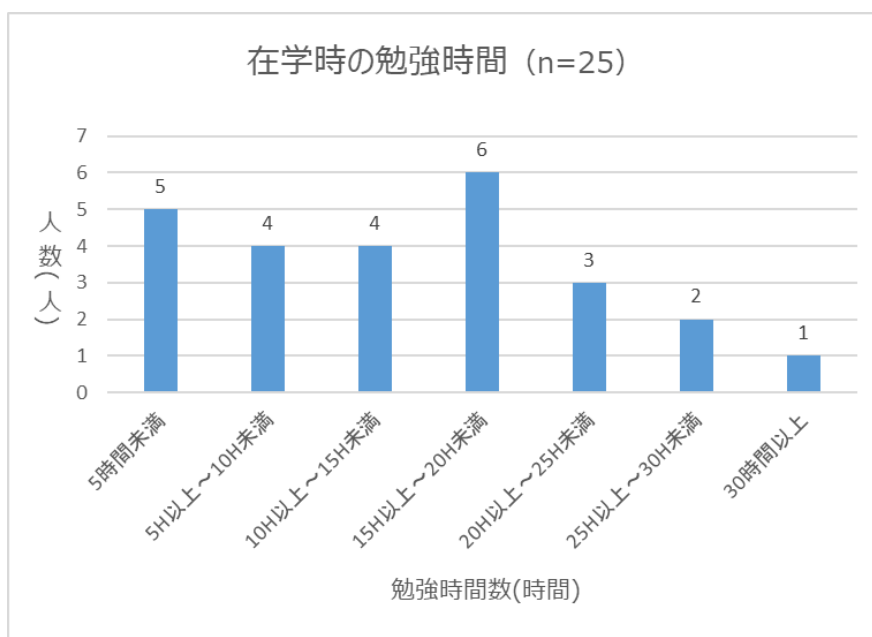


図 5. 在学中の勉強時間

授業時間以外の勉強時間をどのように確保しましたか（質問 13 記述）

- ・土日休みを中心に確保しました
- ・土・日中心
- ・週末にまとめて時間を確保した。
- ・会社の昼休み時間
- ・土・日
- ・朝の 1 時間、昼休みの 1 時間
- ・授業が終わった後に自宅で。
- ・アルバイトなど
- ・プロ研時 50 時間
- ・睡眠を削りました。
- ・お昼休み
- ・週末や平日夜など家族の理解を得ながら捻出した。
- ・睡眠時間を削って（子供が産まれたばかりで大変でした）
- ・朝早く起きて平日 1～2 時間、あとは休日
- ・学部生のため
- ・仕事を調整し、勤務時間中に確保
- ・土・日、業後
- ・早朝
- ・休日を削って勉強しました。
- ・寝る前

（3） 仕事で役立ったと思う科目（質問 14）

仕事に役立ったと思う科目を見ると以下のようになる。最大 3 つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表 1. 仕事の上で役立ったと思う科目

アカウントング	5	6.7%	サービス・マネジメント	2	2.7%
経営管理論	4	5.3%	地域公共政策	2	2.7%
社会起業家論	3	4.0%	定性的研究方法論	2	2.7%
マーケティング戦略	3	4.0%	経営リスク・マネジメント	2	2.7%
マーケティング	3	4.0%	経営戦略	2	2.7%
企業倫理	3	4.0%	マーケティング・リサーチ	2	2.7%
技術経営・イノベーション特論	3	4.0%	意思決定分析	2	2.7%
人的資源管理論	3	4.0%	14 科目が該当者 1 人		
プロジェクト研究	3	4.0%			

（4） 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目（質問 15）

仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目を見ると以下のようになる。この問も最大 3 つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表 2. 仕事とは関係なく役立ったと思う科目

デザイン・マネジメント	6	8.0%	クリティカル・シンキング	2	2.7%
四国経済事情	3	4.0%	定性的研究方法論	2	2.7%
社会起業家論	3	4.0%	イノベーション・マネジメント	2	2.7%
クリエイティビティと地域活性化	3	4.0%	経営戦略	2	2.7%
アカウンティング	3	4.0%	マーケティング戦略	2	2.7%
ファイナンス・マネジメント	3	4.0%	16科目が該当者 1人		
人的資源管理論	3	4.0%			

(5) 土曜日の開講について (質問 16)

社会人学生が多いこともあり、現在土曜日も開講しているが、それについての回答が以下のようになる (図 6 を参照)。「必要」が 64.0%、「ある程度必要」が 24.0% で合計 88.0% となった。

前回アンケート調査 (令和元年度修了生対象) では、「必要」が 66.7%、「ある程度必要」が 25.0% で合計 91.7% であった。

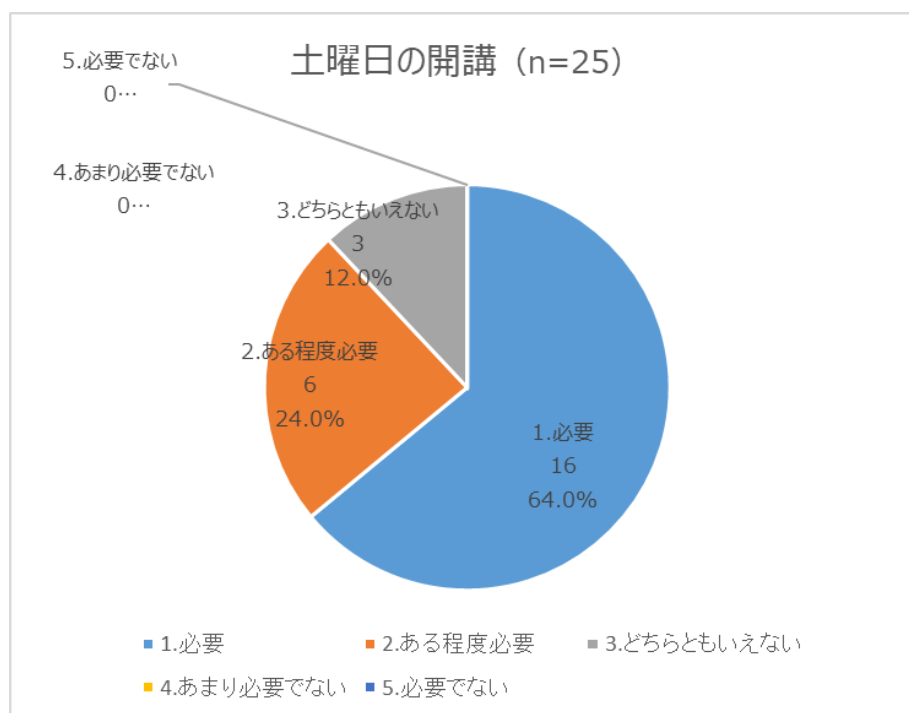


図 6. 土曜日の開講について

(6) 授業の聴講について (質問 17)

履修登録・単位取得なしで科目受講の「聴講」についての回答は、「聴講した科目がある」5人 (20.0%) であった。その中で聴講した科目数は、1科目が2人、2科目が1人、5科目が1人、無回答が1人となった。

(聴講の主な理由)

職場入試業務のため、テストを受けることができないので。

プロ研との両立が心配だったため。

単位を満たしていた。

産業連関表について理解を深めたかった。補講により授業時間が変更になったため。

(7) プロジェクト研究について (質問 18、19)

本研究科のカリキュラムの集大成となるプロジェクト研究について見てみると、「満足している (36.0%)」「ある程度満足している (40.0%)」の合計は 76.0%であった (図 7 を参照)。

前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、「満足している (58.3%)」「ある程度満足している (33.3%)」の合計は 91.6%であった。

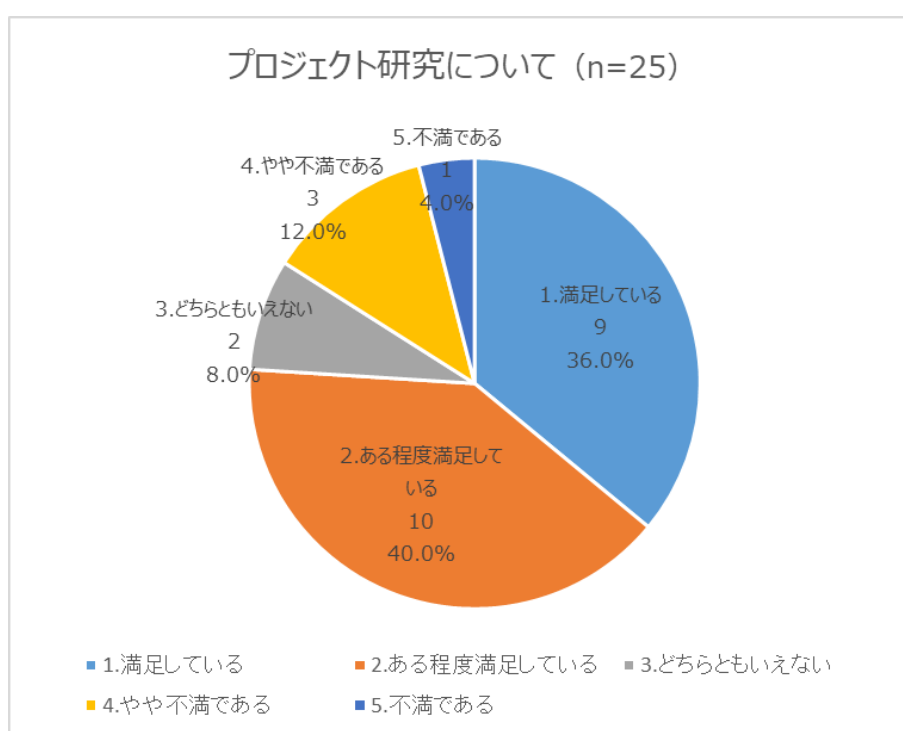


図 7. プロジェクト研究について

また、プロジェクト研究担当教員以外の指導については、「十分な助言・指導を受けた」が 52.0%、「充分とはいえないが、助言・指導を受けた」が 32.0%で、合計 84.0%が担当教員以外から指導を受けていた。他方、「助言・指導は受けなかった」は 16.0%であった。担当教員以外で指導を受けた人は「本研究科内の教員 (n=17)」「本研究科内の学生 (n=5)」「学内の教員 (n=3)」「職場の人 (n=3)」「友人・知人・家族 (n=3)」であった。

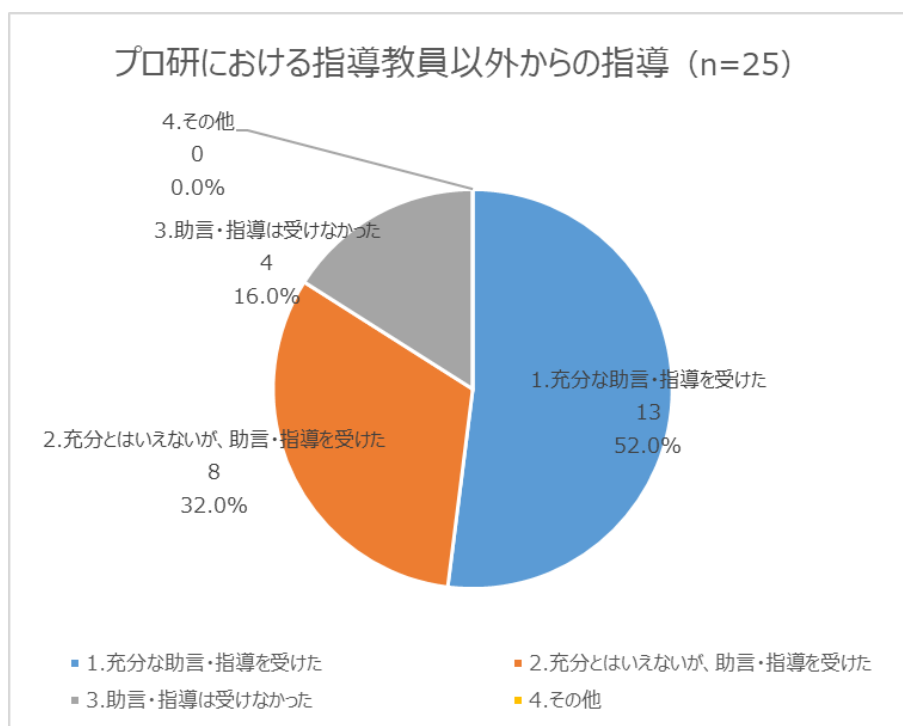


図 8. プロジェクト研究における指導教員以外からの指導について

(プロ研における指導教員以外からの助言・指導を受けた／受けなかった理由)

主指導教員への遠慮が少しあった。
 アンケート方法が変更したため。
 先生は素晴らしい
 関係する授業の際に助言を受けました。
 担当教員に充分にご指導いただいた為。
 担当教員の専門分野だったから。

(8) 自習室、教室の環境について (質問 20、21)

自習室と教室の環境についての満足度を見てみると、教室は「満足している」が 44.0%、「ある程度満足している」が 40.0%で合計 84.0%が満足と回答している。自習室は「満足している」が 52.0%、「ある程度満足している」が 12.0%で合計 64.0%が満足と回答している (図 9 を参照)。

前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、教室は合計 91.6%が満足、自習室は合計 83.3%が満足と回答していたので、自習室、教室の満足度は前年に比べ両項目とも低下している。

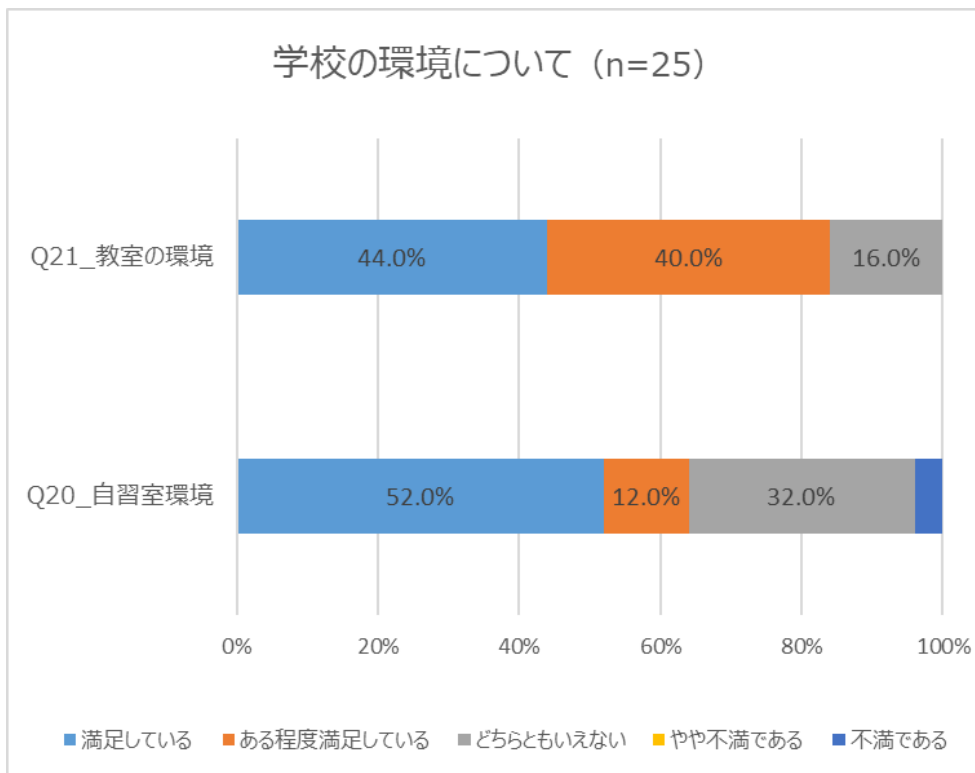


図 9. 学校の環境について

(9) 本研究科 PC ルームの利用状況について (質問 22、23、24、25)

本研究科 PC ルームの利用状況については、「イベントやプロジェクト研究等のみ (16.0%)」「1週間に1回以上 (12.0%)」「1ヶ月に2~3回程度 (8.0%)」で、「ほとんど利用しなかった」が60.0%だった (図 10 を参照)。

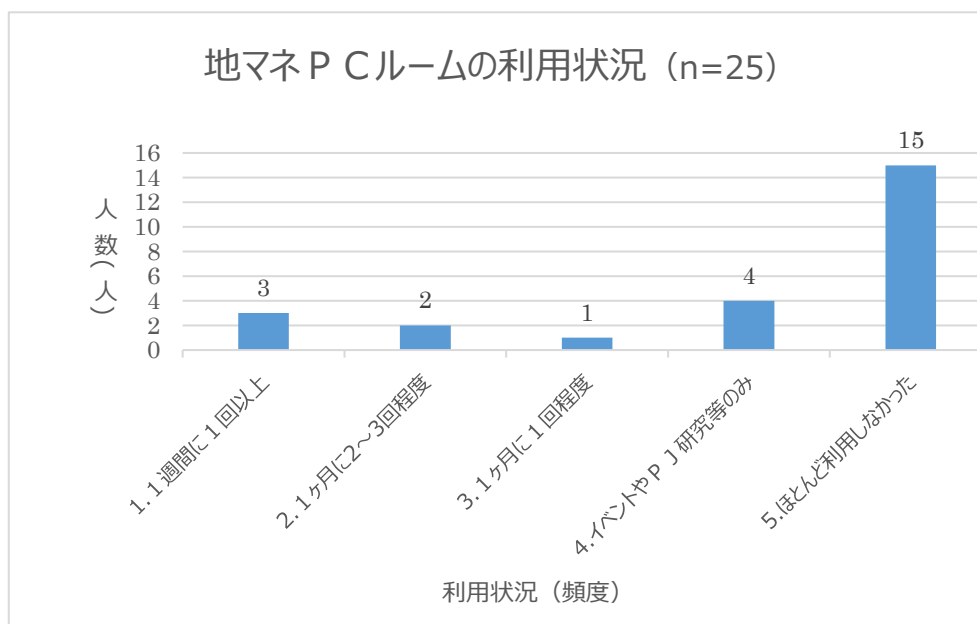


図 10. PC ルームの利用状況

PC を利用した 10 名について、アプリ・機器の利用頻度をたずねた結果、「利用した（「たまに利用した」「よく利用した」の合計）」が 6 割を超えたのは「MS-Office」「プリンター」で、「SPSS」は「利用していない」が 5 割であった（図 11 を参照）。

PC ルームを利用しなかった理由については、「自宅 PC や持込み PC で代替えができるから」の回答が 9 割を占めていた（図 12 を参照）。

PC ルームに導入希望の機器やアプリケーションについては、「Teams」「SPSS」「テプラ」「穴あけパンチ」が各 1 名、「特になし」が 2 名の回答だった。

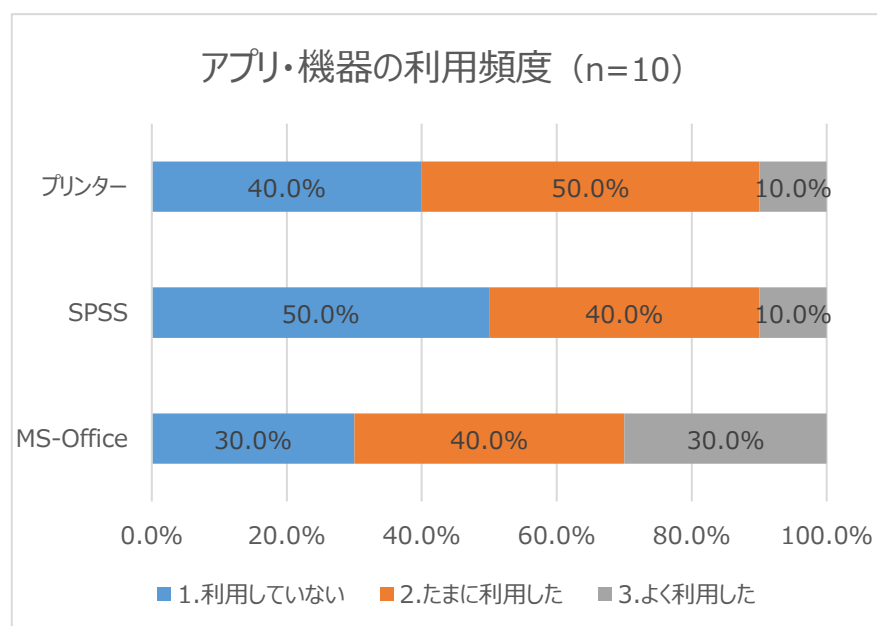


図 11. アプリ・機器の利用頻度

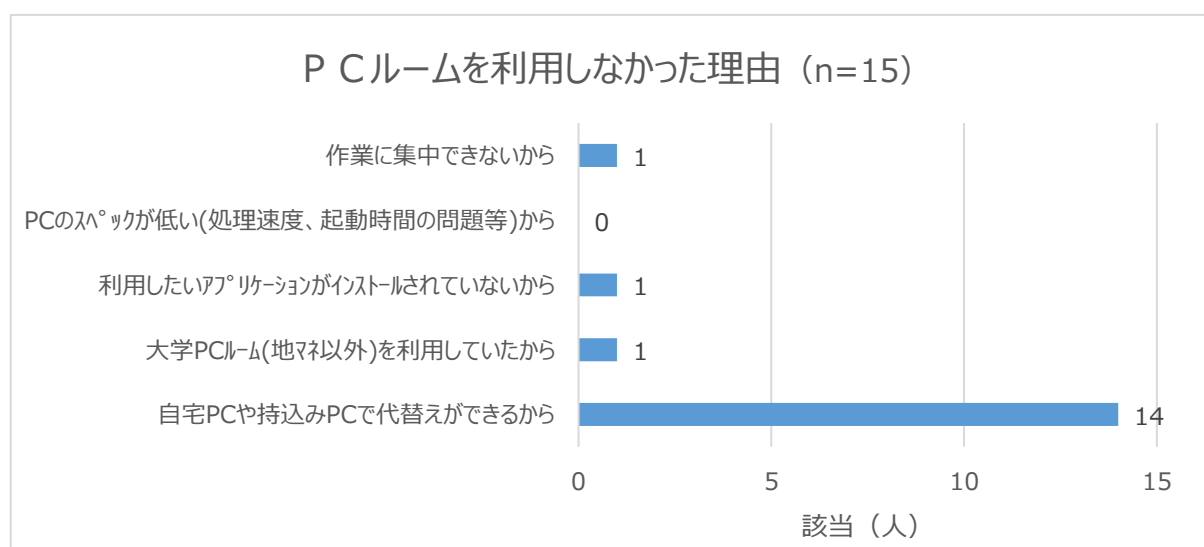


図 12. PC ルームを利用しなかった理由

(10) オンラインでの授業科目や受講について (質問 26、27、28)

授業の受講方法については、「授業は主に対面で受講したが、事情に応じてオンラインで受講することもあった」が 44.0%、「授業は主にオンラインで受講した」が 32.0%、「授業は主に対面で受講した」が 16.0%となっている（図 13 を参照）。

オンラインでの受講については、「問題なくオンラインで受講できた」が92.0%（「思う」「どちらかというと思う」の合計）、「オンラインで受講する力が身についた」が84.0%（同上）、「オンラインの授業におおきた満足している」が84.0%（同上）となっている。「コロナ感染症が終息した後もオンラインの授業は必要である」が80.0%（同上）、「本研究科の授業は対面で受講する方がよい」が88.0%（同上）となっている（図14を参照）。

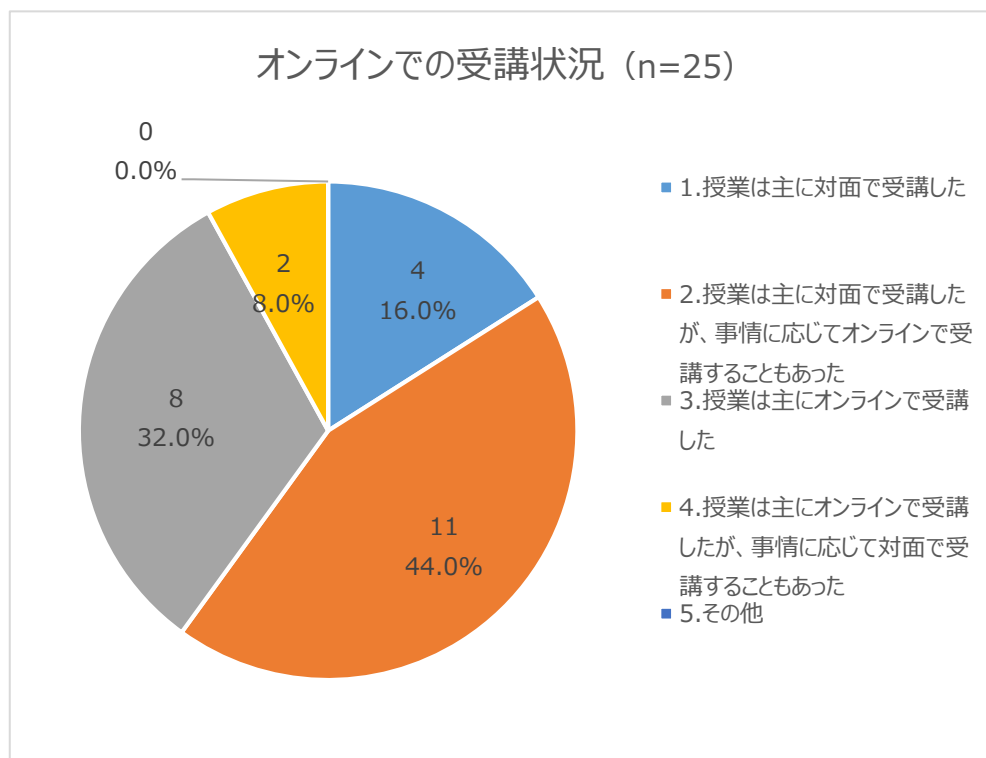


図13. 授業の受講方法

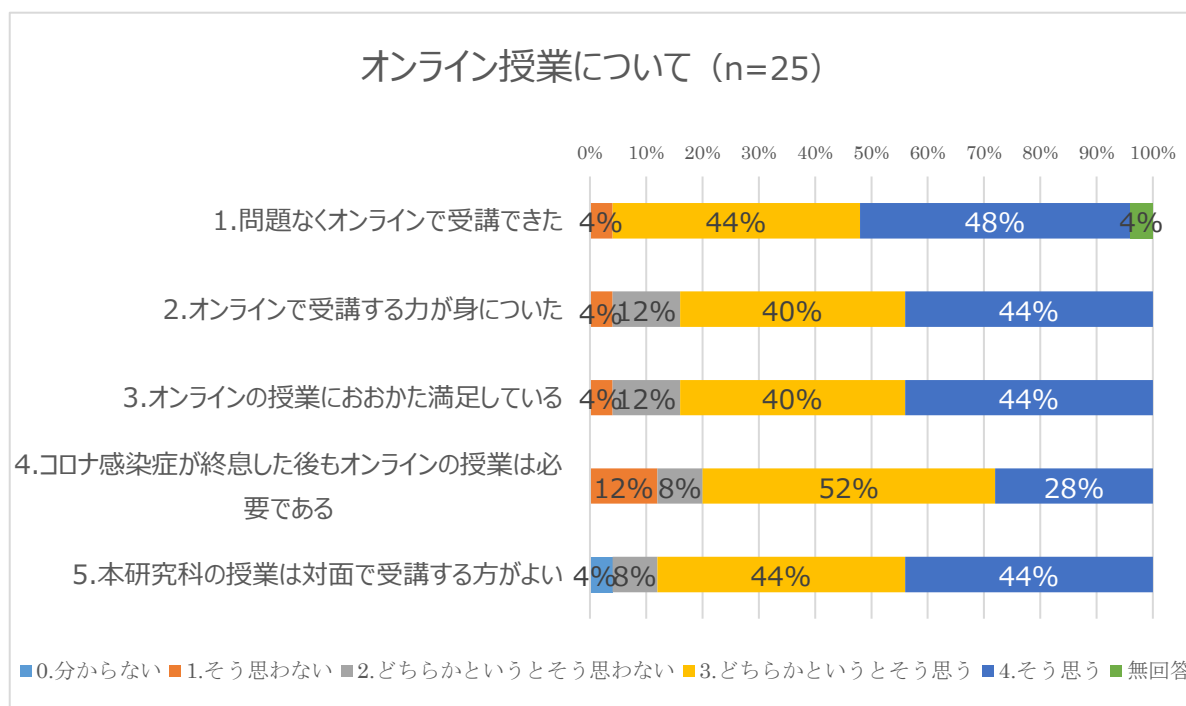


図14. オンライン授業について

オンラインでの授業科目や受講そのものについて（自由意見）

社会人にとってオンラインはありがたかったと思います。地マネとしてはコロナ後もオンライン併用してほしいと思います。

入院中、授業を受けることができて助かりました。

仕方ない

パソコンがあれば、どこでも受講できる。

選択肢としてあるのは良いと思います。

ディスカッションの多い授業などは、やはり対面がやりやすいと感じました。

最初は戸惑いましたが、とても便利に感じました。

対面が良い

転換期で準備は大変だったが、慣れていくと受講そのものは大いに利便性を感じた。

地域公共政策

すごく良かった。沢山の授業を受けることができた。一方でオンラインの授業はそこまで身にはついてないような気がします。

3. 在学当時の支援関係について

(1) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について（質問 29、30）

社会人学生に、社会人組織（所属組織）からの支援ならびに社会人組織以外（奨学金など）からの援助について見てみると、以下のような状況である（図 15 を参照）。

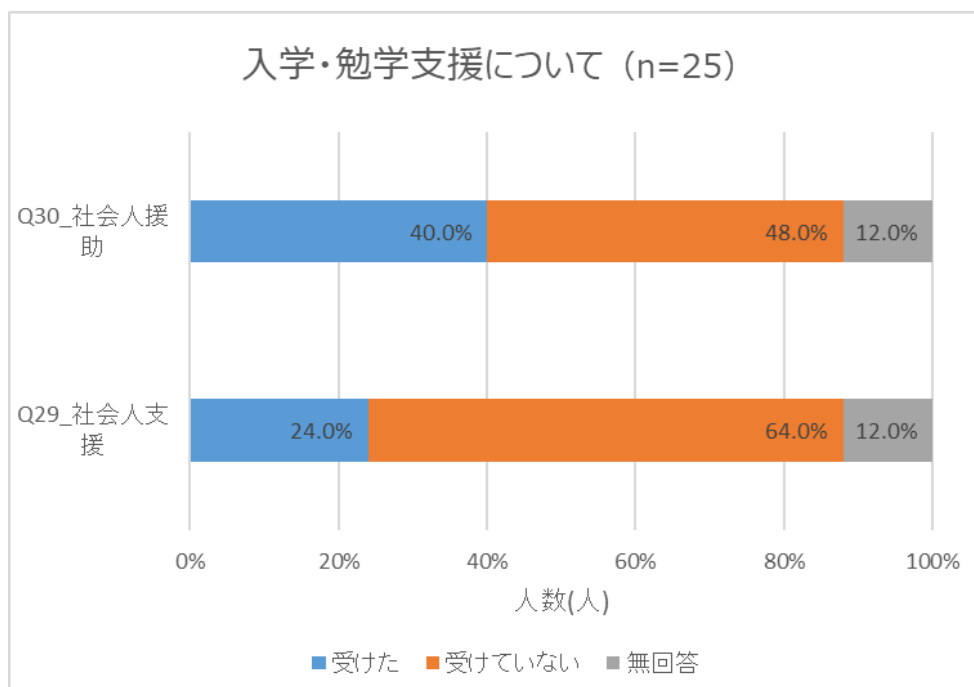


図 15. 入学・勉学支援について

所属組織からの支援内容（質問 29 記述）
修学補助金 全学補助 学費、勤務調整 学費、早帰のサポート
所属組織以外からの援助内容（質問 30 記述）
専門実践教育訓練給付金（7 件） 国の給付金 修学補助金

(2) 学部学生の就職について（質問 31）

学部からの進学生に、就職支援についての対応について満足度を見てもみることにする（図 16 を参照）。

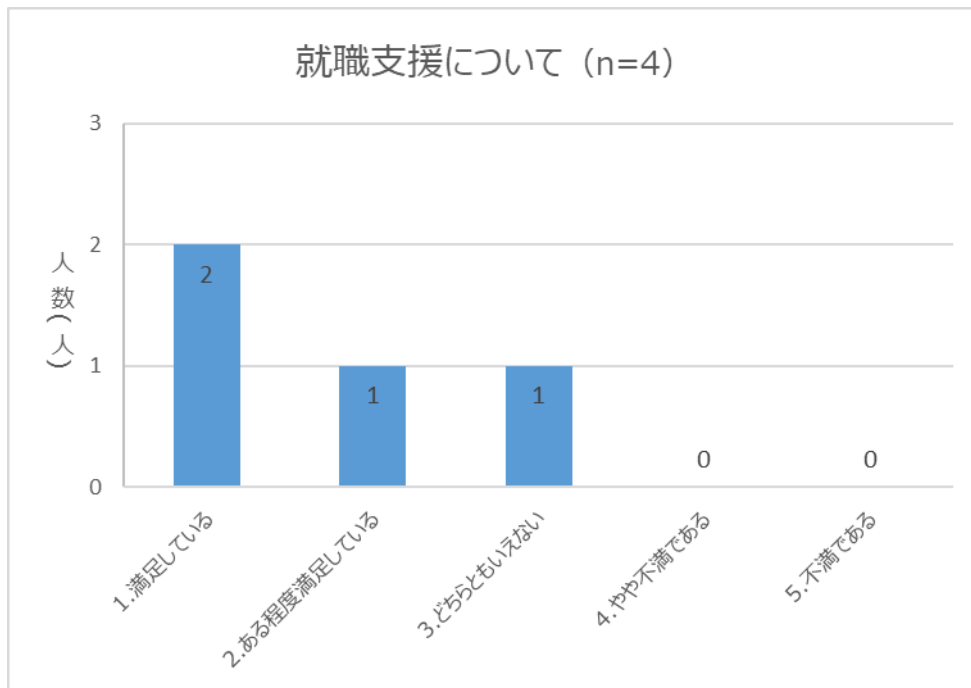


図 16. 就職支援について

表3 大学院教育で身に付いた能力（平均点順）つづき

		平均値	標準偏差
⑳	ディスカッションする力	3.33	0.92
⑦	知識を課題解決に応用する力	3.29	0.86
⑪	汎用的なモデルを構築する力（ビジネス・モデル、概念モデル等）	3.29	0.69
⑬	相手の意見を丁寧に聴く力	3.29	0.55
⑩	新しい価値を生み出す力	3.25	0.68
③	目標を設定し確実に行動する力	3.21	1.14
⑤	俯瞰的、全体的に組織や事象を把握する能力	3.21	0.59
⑧	複眼的な政策・戦略を立案する力	3.21	0.93
⑱	専門分野に関する知識や技能	3.17	0.64
⑥	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	3.13	0.85
⑨	戦略や政策を実行する力	3.13	0.99
㉒	地域に貢献する力	3.08	1.02
㉕	地域や社会の特性や魅力を見出す力	3.08	1.02
㉖	倫理観・社会的責任	3.08	1.14
①	物事に進んで取り組む力	2.96	1.23
②	他人に働きかけ巻き込む力	2.96	1.12
⑯	ストレスの発生源に対応する力	2.96	0.81
㉗	グローバルな視点	2.88	0.90
㉓	リーダーシップ	2.83	1.05

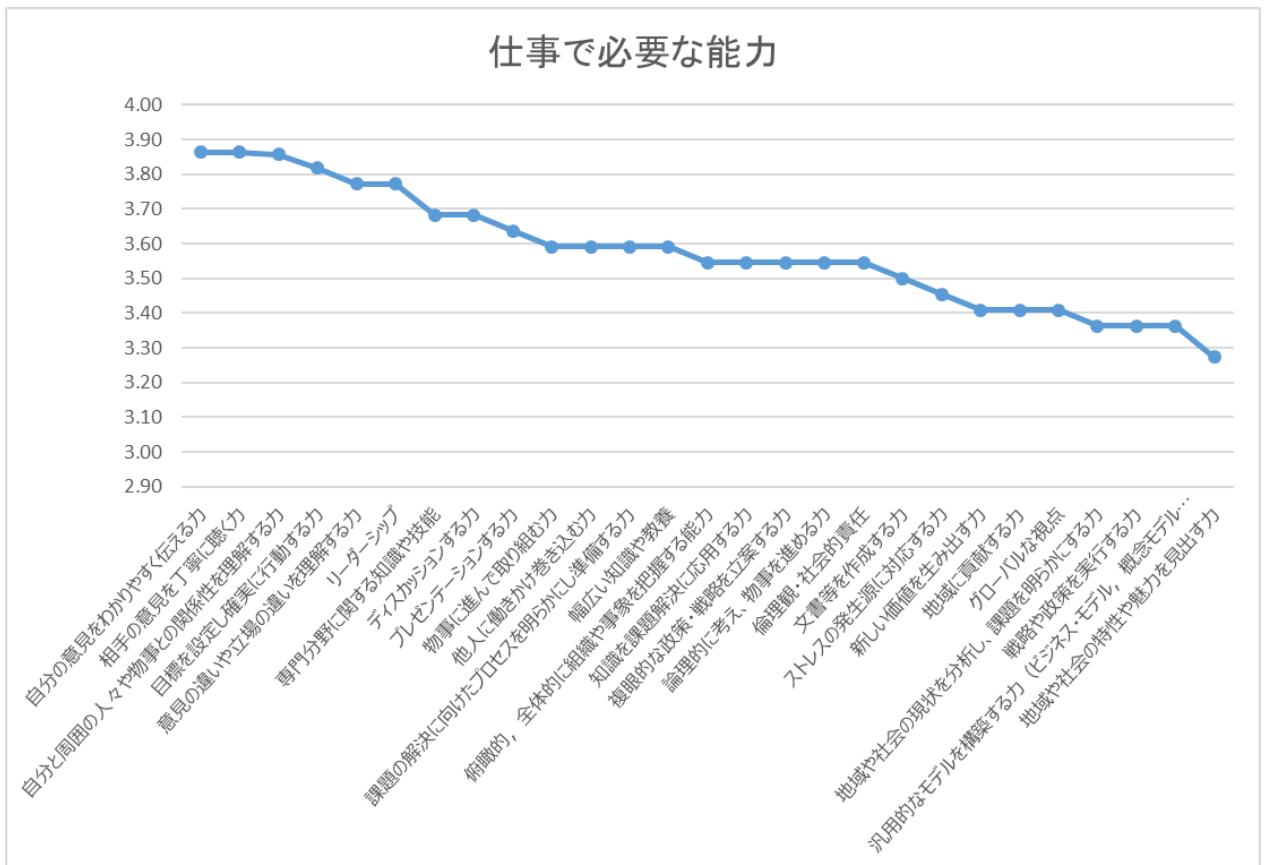


図18. 現在の仕事に必要な能力

表4 現在の仕事に必要な能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
⑫	自分の意見をわかりやすく伝える力	3.86	0.35
⑬	相手の意見を丁寧に聴く力	3.86	0.35
⑮	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	3.86	0.36
③	目標を設定し確実に行動する力	3.82	0.39
⑭	意見の違いや立場の違いを理解する力	3.77	0.43
⑳	リーダーシップ	3.77	0.43
⑱	専門分野に関する知識や技能	3.68	0.48
㉑	ディスカッションする力	3.68	0.48
㉒	プレゼンテーションする力	3.64	0.66
①	物事に進んで取り組む力	3.59	0.59
②	他人に働きかけ巻き込む力	3.59	0.80
⑥	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	3.59	0.67
⑰	幅広い知識や教養	3.59	0.59
⑤	俯瞰的、全体的に組織や事象を把握する能力	3.55	0.60
⑦	知識を課題解決に応用する力	3.55	0.67
⑧	複眼的な政策・戦略を立案する力	3.55	0.74
⑲	論理的に考え、物事を進める力	3.55	0.60
㉔	倫理観・社会的責任	3.55	0.74
⑳	文書等を作成する力	3.50	0.67
⑯	ストレスの発生源に対応する力	3.45	0.67
⑩	新しい価値を生み出す力	3.41	0.73
㉔	地域に貢献する力	3.41	0.85
㉗	グローバルな視点	3.41	0.59
④	地域や社会の現状を分析し、課題を明らかにする力	3.36	0.79
⑨	戦略や政策を実行する力	3.36	0.95
⑪	汎用的なモデルを構築する力（ビジネス・モデル、概念モデル等）	3.36	0.79
㉕	地域や社会の特性や魅力を見出す力	3.27	0.88

表5 「大学院教育で身についた能力」と「現在の仕事で必要な能力」の順位差

		身についた 能力	仕事で 必要な能力	順位差※
①	物事に進んで取り組む力	23	10	-13
②	他人に働きかけ巻き込む力	23	10	-13
③	目標を設定し確実に行動する力	14	4	-10
④	地域や社会の現状を分析し、課題を明らかにする力	5	24	19
⑤	俯瞰的、全体的に組織や事象を把握する能力	14	14	0
⑥	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	18	10	-8
⑦	知識を課題解決に応用する力	10	14	4
⑧	複眼的な政策・戦略を立案する力	14	14	0
⑨	戦略や政策を実行する力	18	24	6
⑩	新しい価値を生み出す力	13	21	8
⑪	汎用的なモデルを構築する力（ビジネス・モデル，概念モデル等）	10	24	14
⑫	自分の意見をわかりやすく伝える力	5	1	-4
⑬	相手の意見を丁寧に聴く力	10	1	-9
⑭	意見の違いや立場の違いを理解する力	1	5	4
⑮	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	2	3	1
⑯	ストレスの発生源に対応する力	23	20	-3
⑰	幅広い知識や教養	3	10	7
⑱	専門分野に関する知識や技能	17	7	-10
⑲	論理的に考え、物事を進める力	5	14	9
⑳	文書等を作成する力	5	19	14
㉑	ディスカッションする力	9	7	-2
㉒	プレゼンテーションする力	3	9	6
㉓	リーダーシップ	27	5	-22
㉔	地域に貢献する力	20	21	1
㉕	地域や社会の特性や魅力を見出す力	20	27	7
㉖	倫理観・社会的責任	20	14	-6
㉗	グローバルな視点	26	21	-5

※順位差は、現在の仕事で必要な能力（順位）－ 大学院教育で身についた能力（順位）

表 6 「大学院教育で身についた能力」と「現在の仕事に必要な能力」のクロス表
(各平均値を基準に分類)

大学院教育で身についた能力 (27項目平均 3.21)	身についた (<3.21)	④地域や社会の現状を分析し、課題を明らかにする力(-0.01) ⑯論理的に考え、物事を進める力(0.17) ⑳文書等を作成する力(0.13) ㉑知識を課題解決に応用する力(0.25) ㉒汎用的なモデルを構築する力(ビジネス・モデル, 概念モデル等)(0.07) ㉓新しい価値を生み出す力(0.16) ㉔俯瞰的、全体的に組織や事象を把握する能力(0.34) ㉕複眼的な政策・戦略を立案する力(0.34)	㉖意見の違いや立場の違いを理解する力(0.27) ㉗自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(0.42) ㉘幅広い知識や教養文書等を作成する力(0.17) ㉙プレゼンテーションする力(0.22) ㉚自分の意見をわかりやすく伝える力(0.49) ㉛ディスカッションする力(0.35) ㉜相手の意見を丁寧に聴く力(0.57) ㉝目標を設定し確実に行動する力(0.61)
	身につかなかった (<3.21)	㉞戦略や政策を実行する力(0.24) ㉟地域に貢献する力(0.33) ㊱地域や社会の特性や魅力を見出す力(0.19) ㊲倫理観・社会的責任(0.46) ㊳ストレスの発生源に対応する力(0.50) ㊴グローバルな視点(0.53)	㊵専門分野に関する知識や技能(0.52) ㊶課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力(0.47) ㊷物事に進んで取り組む力(0.63) ㊸他人に働きかけ巻き込む力(0.63) ㊹リーダーシップ(0.94)
		必要でない (<3.58)	必要 (>3.58)
現在の仕事に必要な能力 (27項目平均 3.58)			

※ () 内は、現在の仕事に必要な能力 (平均値) - 大学院教育で身についた能力 (平均値)

表7「大学院教育で身についた能力」と「現在の仕事に必要な能力」のクロス表
(各得点を基準に分類)

大学院教育で身についた能力 (4点満点)	3-4点			<ul style="list-style-type: none"> ⑭意見の違いや立場の違いを理解する力(0.27) ⑮自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(0.42) ⑰幅広い知識や教養(0.17) ⑳プレゼンテーションする力(0.22) ④地域や社会の現状を分析し、課題を明らかにする力(-0.01) ⑫自分の意見をわかりやすく伝える力(0.49) ⑲論理的に考え、物事を進める力(0.17) ㉑文書等を作成する力(0.13) ㉒ディスカッションする力(0.35) ⑦知識を課題解決に応用する力(0.25) ⑪汎用的なモデルを構築する力(ビジネス・モデル, 概念モデル等)(0.07) ⑬相手の意見を丁寧に聴く力(0.57) ⑩新しい価値を生み出す力(0.16) ③目標を設定し確実に行動する力(0.61) ⑤俯瞰的, 全体的に組織や事象を把握する能力(0.34) ⑧複眼的な政策・戦略を立案する力(0.34) ⑱専門分野に関する知識や技能(0.52) ⑥課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力(0.47) ⑨戦略や政策を実行する力(0.24) ㉔地域に貢献する力(0.33) ㉕地域や社会の特性や魅力を見出す力(0.19) ㉖倫理観・社会的責任(0.46)
	2-3点未満			<ul style="list-style-type: none"> ①物事に進んで取り組む力(0.63) ②他人に働きかけ巻き込む力(0.63) ⑯ストレスの発生源に対応する力(0.50) ㉗グローバルな視点(0.53) ㉚リーダーシップ(0.94)
	2点未満			
		2点未満	2-3点未満	3-4点
現在の仕事に必要な能力 (4点満点)				

(2) 地域や社会への関心について (質問 33、34)

研究科に入学する以前と入学後に地域や社会への関心に変化があったかを見てみた。

入学前 (質問 33) は、「高い関心をもっていた」が 28.0%、「関心をもっていた」が 56.0%、「あまり関心をもっていなかった」が 8.0%、「全く関心をもっていなかった」が 8.0%であった。入学後 (質問 34) は、「関心が高まった」が 100%となった (図 19、20 を参照)。

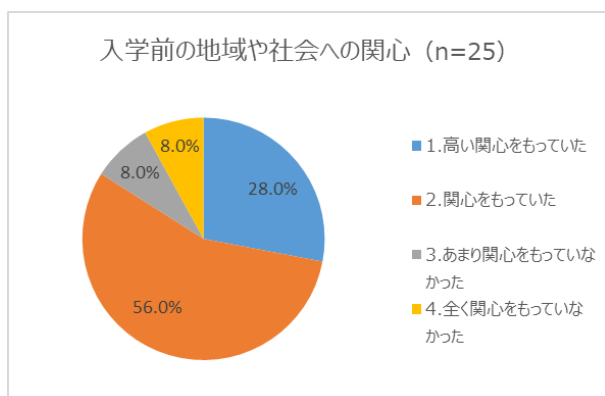


図 19. 入学前の地域や社会への関心

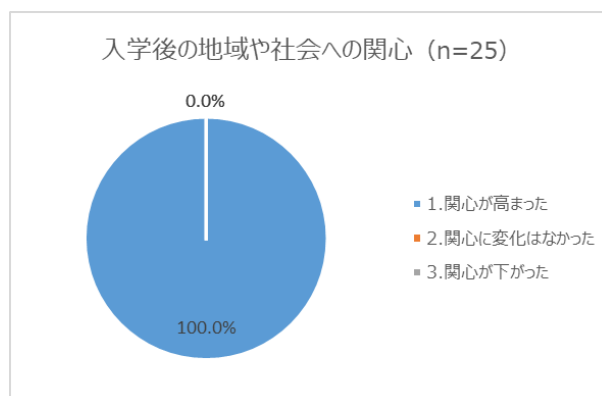


図 20. 入学後の地域や社会への関心

(3) 人的ネットワークの構築について (質問 35)

研究科において人的なネットワークを構築できたかについては、「非常にできた (56.0%)」「ある程度できた (44.0%)」の合計が 100%となっており、研究科の学びの場としての効果の一つと捉えられる (図 21 を参照)。

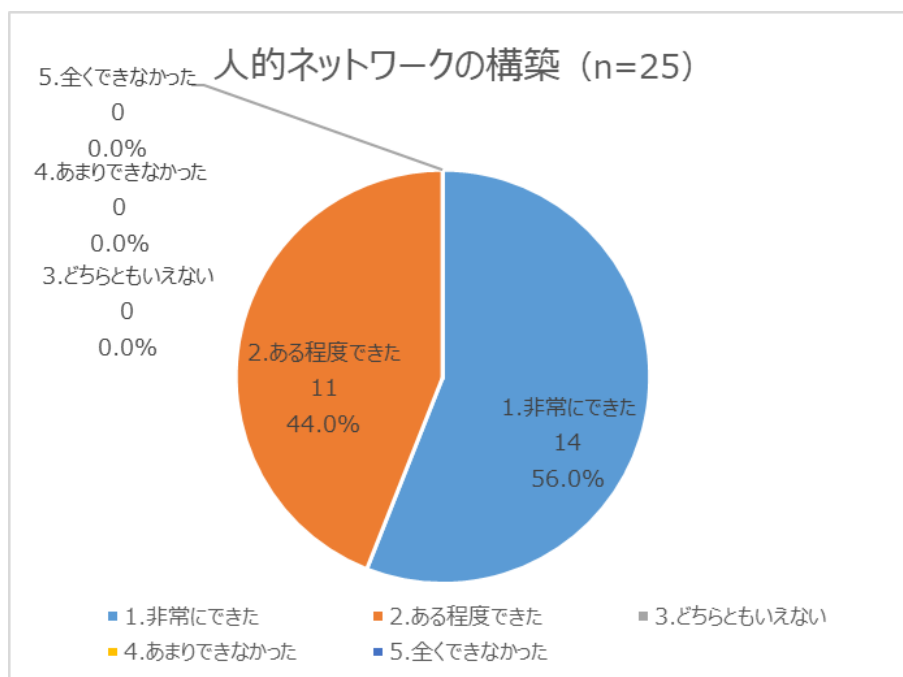


図 21. 人的ネットワークの構築

(4) 学んだことに満足しているかについて (質問 36)

総合的にみて、研究科で学んだことについて満足しているかについては、「満足している」が 84.0%、「ある程度満足している」が 16.0%で、合計が 100%であった (図 22 を参照)。前回アンケート調査 (令和元年度修了生対象) では、「満足している (91.7%)」「ある程度満足している (8.3%)」

で合計が 100%であった。

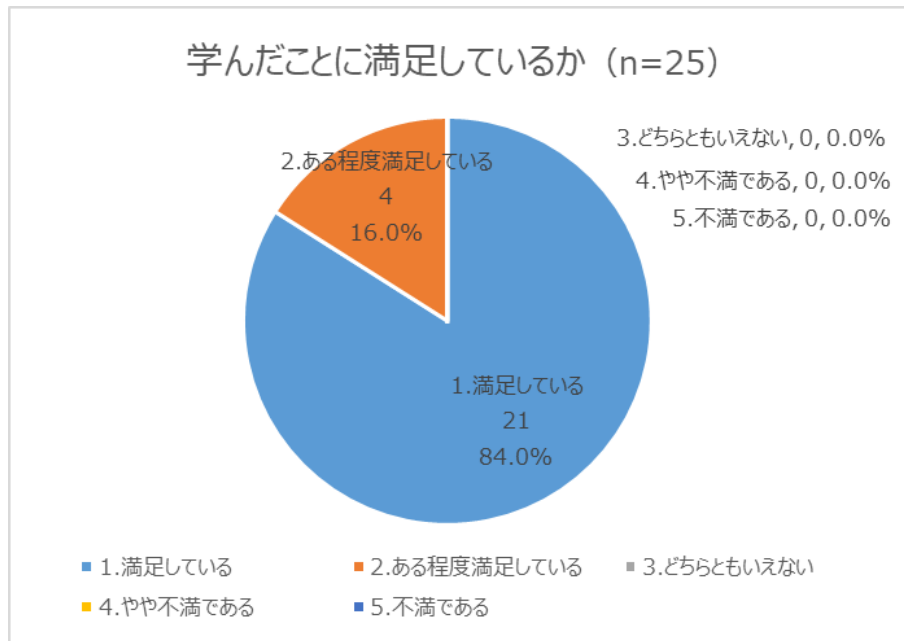


図 22. 学んだことに満足しているか

(5) 愛着について (質問 37)

研究科に愛着があるかどうかを見てみると、「非常にある」が 84.0%、「ある程度ある」が 12.0%で合計が 96.0%となり、ほぼ全数が「愛着がある」と回答している (図 23 を参照)。前回アンケート調査(令和元年度修了生対象)では、「非常にある (50.0%)」「ある程度ある (50.0%)」で合計 100%であった。

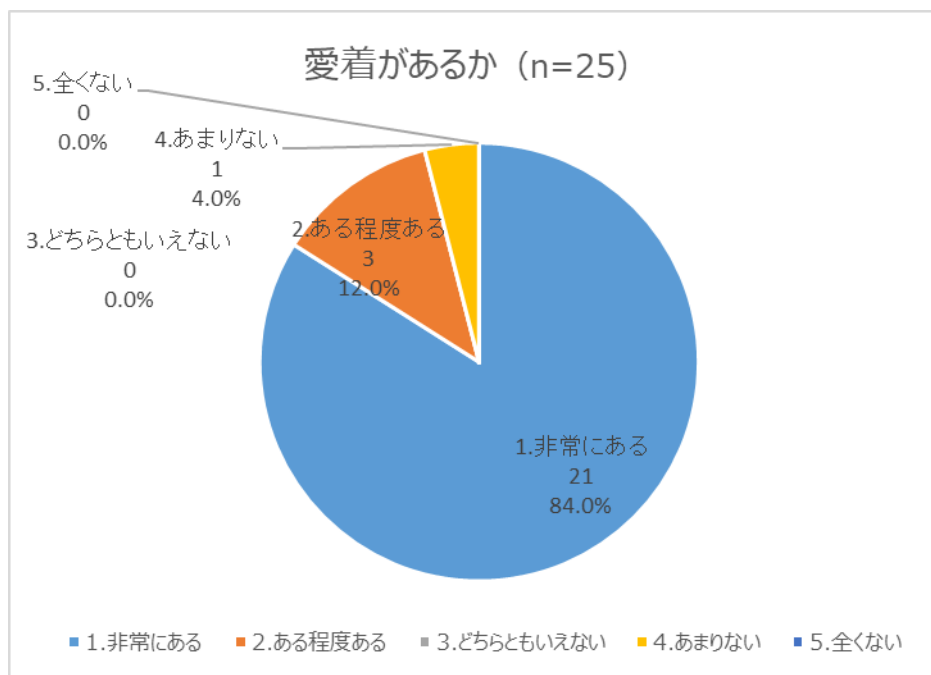


図 23. 愛着があるか

5. 現在の状況について

(1) 自己研修について（質問 39）

能力向上のため、何か自己研修を行っているかを見てみると、「行っている人・予定している人」が 72.0%、「行っていない人」が 28.0%となった（図 24 を参照）。

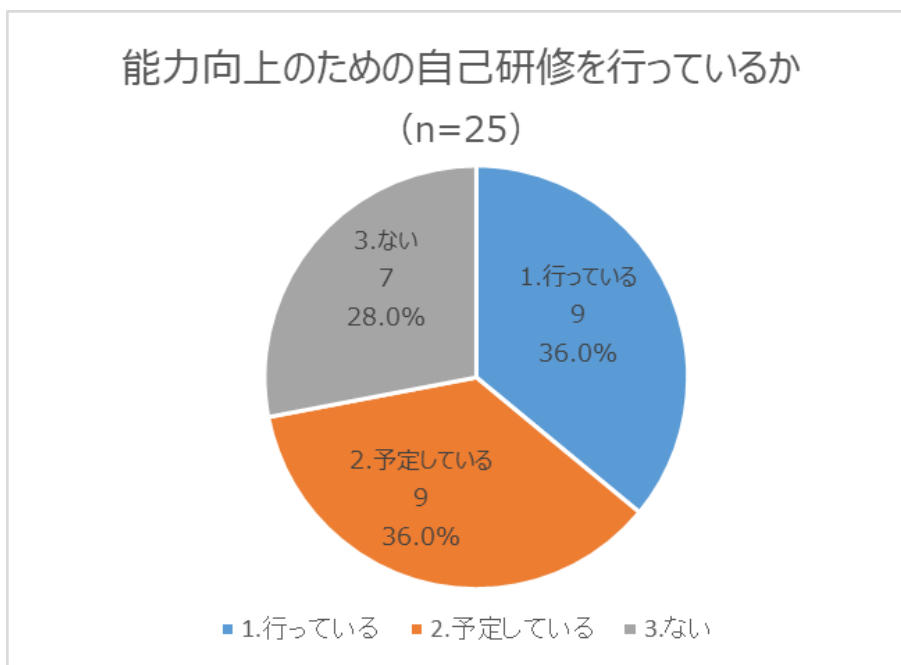


図 24. 能力向上のための自己研修を行っているか

具体的内容（質問 39 記述）

行っていると回答した人

- ・語学（中国語）、特支教免
- ・社内研修等
- ・メッチャ本読んでいます。

予定していると回答した人

- ・資格取得
- ・ポストMBA
- ・英語 TOEIC
- ・他の機会での学び
- ・学会での発表など。
- ・TOEIC
- ・これから考えたいと思います。

(2) 地域活動について (質問 40)

個人あるいはグループで地域のための活動を行っているかを見てみると、「予定している人」が 36.0%、「行っていない人」が 64.0%となった (図 25 を参照)。

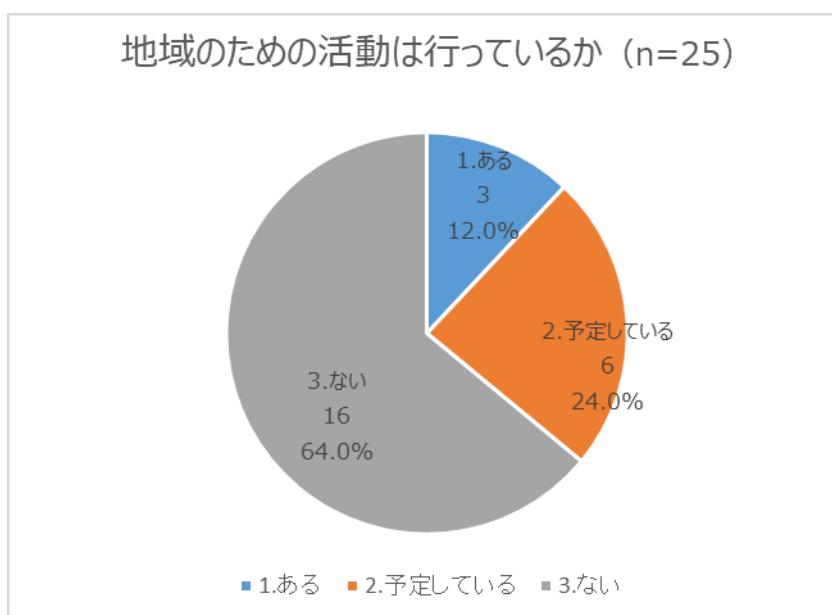


図 25. 地域の為の活動を行っているか

具体的内容 (質問 40 記述)

行っていると回答した人
・NPO 支援
予定していると回答した人
・夜間中学について
・ラジオ番組 (福祉、教育)
・J T 社内有志団体 O2
・地マネの仲間と。

(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (質問 41,42)

研究科で開催した講演会・シンポジウムなどに参加しようと思うかについて見てみると、「思う」が 92.0%であった (図 26 を参照)。

さらに、研究科で開催する講演会・シンポジウムはどのような形がよいと思うかについて見てみると、対象を限定しない「一般公開」が 88.0%、「在学生・修了生のみ対象」が 12.0%となった (図 27 を参照)。

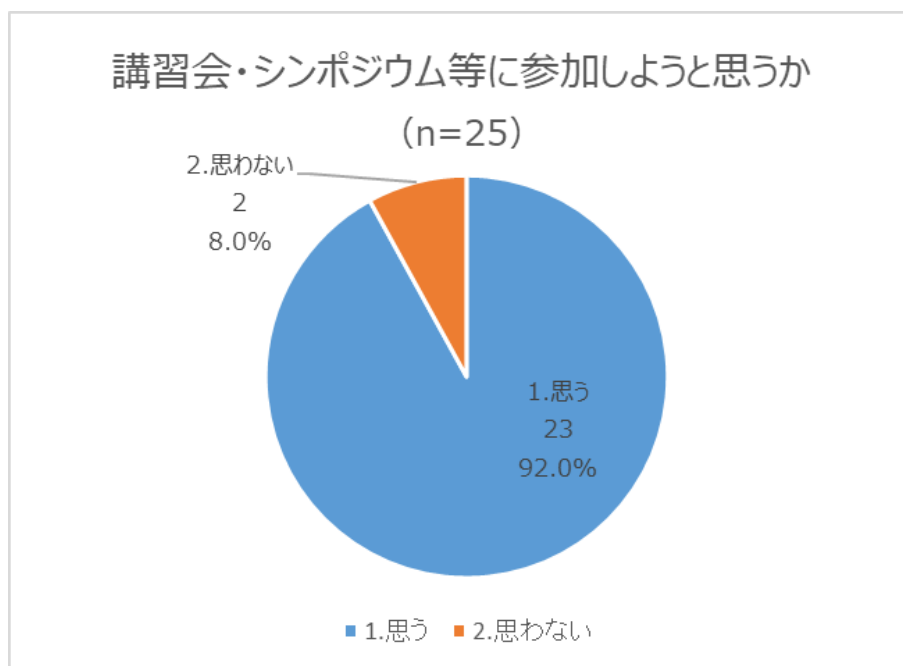


図 26. 講演会・シンポジウムに参加しようと思うか

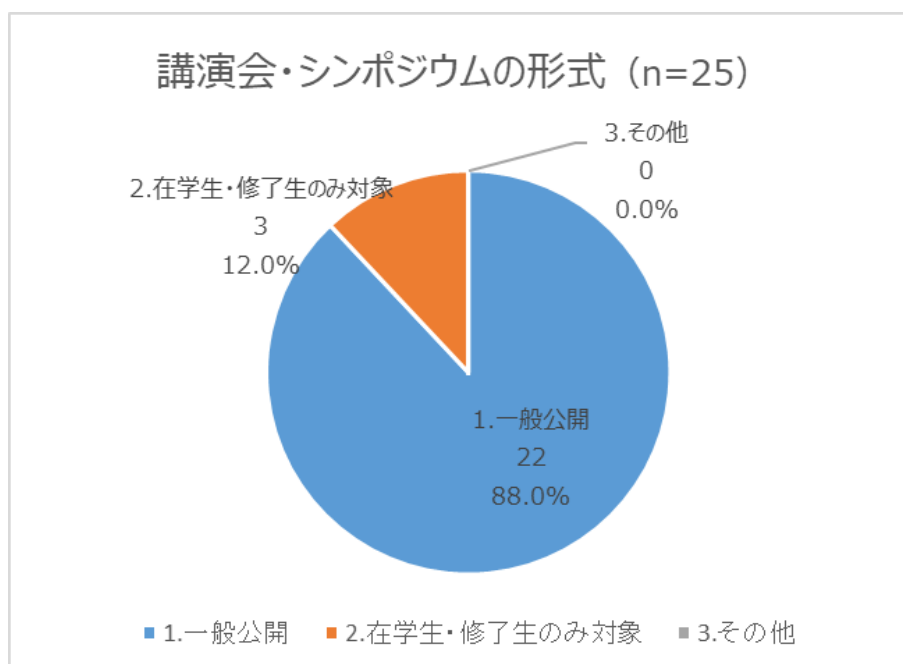


図 27. 講演会・シンポジウムの形式について

(4) 後期(10月)入学の必要性について(質問43)

研究科に、後期(10月)入学が必要かどうかについて見てみると、「非常に必要」が4.0%、「ある程度必要」が52.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「あまり必要でない」が20.0%、「全く必要ない」が4.0%となった(図28を参照)。

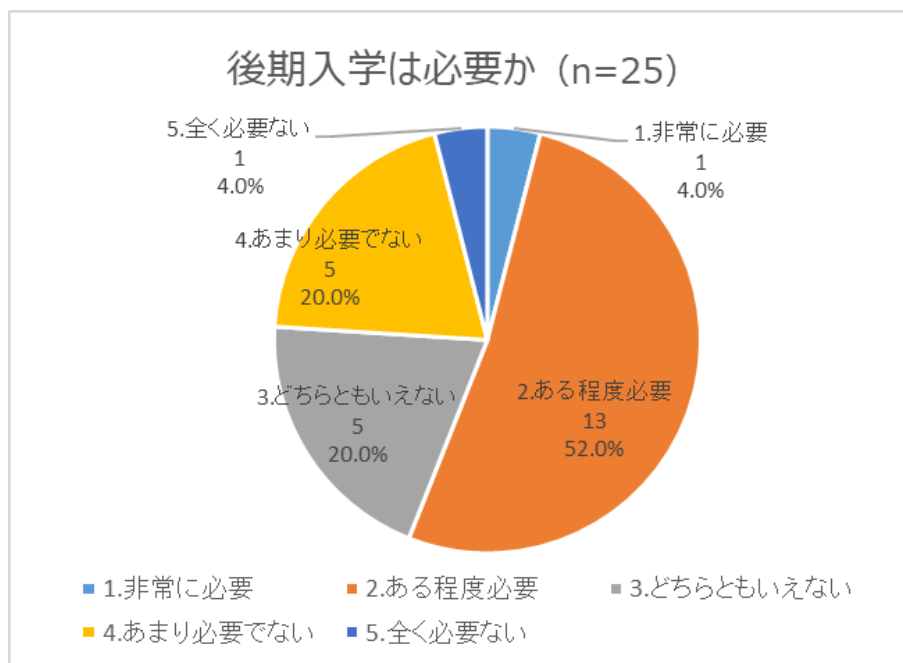


図 28. 後期入学の必要性について

第3章 自由記述のデータ

質問 18. プロジェクト研究についてどう思いますか。またその理由はなんですか。

- ・コロナ禍で当初思い描いていた研究ができなかった。それが残念です。
- ・ゼミの指導教員の指導内容にバラつきがある。充分指導頂いたと思えなかった。
- ・途中だから。
- ・コロナでテーマを変更したため。
- ・もっと頑張れた。
- ・仕事との両立が難しい
- ・コロナの影響はあったので、もう少しやりたい部分もあった。
- ・大変たくさんのご指導をいただき感謝しています。
- ・時間が足りなかったが、できることを力の限りやりました。
- ・研究方法など将来活用できる。
- ・もう少し頑張れたと思う。
- ・人生のテーマが見つかった。
- ・対象の問題点を明らかにすることができた。

質問 28. オンラインでの授業科目や受講そのものについて自由にお書き下さい。

- ・社会人にとってオンラインはありがたかったと思います。地マネとしてはコロナ後もオンライン併用してほしいと思います。
- ・入院中、授業を受けることができて助かりました。
- ・仕方ない
- ・パソコンがあれば、どこでも受講できる。
- ・選択肢としてあるのは良いと思います。
- ・ディスカッションの多い授業などは、やはり対面がやりやすいと感じました。
- ・最初は戸惑いましたが、とても便利に感じました。
- ・対面が良い
- ・転換期で準備は大変だったが、慣れていくと受講そのものは大いに利便性を感じた。
- ・地域公共政策
- ・すごく良かった。沢山の授業を受けることができた。一方でオンラインの授業はそこまで身にはついてないような気がします。

質問 38. 地域マネジメント研究科のカリキュラム等について自由に意見を記入してください。

- ・原先生の授業最高。
- ・とても勉強になり有意義なカリキュラムでした。
- ・地域密着の講義は大変有意義で地マネ独自であると感じる。
- ・最高でした。ディスカッションやプレゼンが良かったです。力がつきました。

質問 44. 香川大学、あるいは地域マネジメント研究科がもっと重視したり改善したりした方がよいと思う教育内容や取り組み、要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

- ・ 福祉系
- ・ 英語をもっと使う。
- ・ 地域へのメッセージ発信
- ・ プロ研の教員の組み合わせ
- ・ プロジェクト研究をもっと早くから進めていっても良いかもしれないと感じました。
- ・ 分析系の科目がもっと実用的な内容となれば良いと思います。